

科目名	地域と社会
単位数	2単位
担当者	青木 秀光
授業種別	講義科目

サブタイトル	主体的な市民としていかに都市と関わるか			
授業内容	本授業では、第一に「都市はなにを生み出すか」、第二に「なにが都市を生み出すか」、そして第三に「都市とはどのような過程であるのか」という都市社会学の大きな問いへの応答を試みることで、我々が日々関係する都市について思索し、これからどのように都市との関係を取り結んでいくのかを探求する。より詳しくは、第一の問いに沿って「都市は私たちの生活をどのように変えるのか」という問題を扱う。また、第二の問いに沿って「現代都市の変化」について扱う。さらに、第三の問いに沿って「時間と空間のダイナミズムのなかの具体的な都市」について扱う。なお、授業はテキストを中心に進めるが、そのなかで映像資料の提示や学生同士のディスカッションなどを通じて理解を深めてもらう。			
到達目標	① 社会学的なものの見方ができる。 ② 都市社会学の基礎概念を理解することができる。 ③ 都市社会学の基礎理論・学説を理解することができる。 ④ 理解したことを論理的に整理し、アウトプットすることができる。 ⑤ 理解したことを論理的に整理し、独自の考察を加えてアウトプットすることができる。			
到達目標となる駿大社会人基礎力／養成する能力要素	言語処理力、論理的・多面的思考力、主体的行動力			
卒業認定・学位授与方針との関連	この科目はディプロマ・ポリシー(全学部)の「(5)総合的な力」と関連しており、地域社会現象を総合的にとらえる視点を身につける。			
関連科目	社会学の基礎科目を履修しているのが望ましい。			
テキスト・参考書等				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
都市社会学・入門	松本康 [編]	有斐閣	978-4-641-22015-7	2014年出版。教科書。各回の授業では必ず本教科書を持ってこよう。
授業外における学習方法及び必要な時間	事前学習：次回授業で扱う教科書の範囲を読む、次回テーマについて連想できる語句等を書籍やインターネットなどを使用して調べておく。(2時間) 事後学習：前回の授業内容のレジュメ・教科書を読み返す。自分なりに前回授業内容を説明できるようにする。(2時間)			
成績評価方法				
評価方法	評価割合		成績評価基準等	
リアクションペーパー	20%		到達目標①から④に対応して、授業ごとのリアクションペーパーの内容を評価する。	
定期試験	80%		到達目標①から⑤に対応して、筆記試験を課す。	
課題に対するフィードバックの方法	授業終了ごとに提出されたリアクションペーパーの内容には、次の授業のはじめにフィードバックする。定期試験終了後に模範解答(もしくは採点基準)を配布する。			
実務経験のある教員による授業科目等				
担当教員の実務経験		実践的な教育の取組		
-		-		
授業計画				
第1回	都市社会学の問い			
第2回	都市社会学の始まり シカゴ学派			
第3回	アーバニズム 都市の社会的効果			
第4回	都市生態学と居住分化 都市の社会・空間構造			
第5回	地域コミュニティ その都市的形態と課題			
第6回	都市と社会的ネットワーク 親族・隣人・友人			
第7回	都市圏の発展段階 都市化・郊外化・再都市化			

第8回	情報化・グローバル化と都市再編 新都市社会学からの展開
第9回	インナーシティの危機と再生 労働力の移動とエスニック・コミュニティの生成
第10回	郊外のゆくえ 均質から多様へ
第11回	都市再生と創造都市 横浜
第12回	文化生産とまちづくり 渋谷区神宮前「裏原宿」
第13回	アジアの都市再編と市民 ソウル・上海・ムンバイ
第14回	ボランティアと市民社会 社会を動かす新たな主体
第15回	都市の防災力と復興力 現代都市が災害にあうとき